

MRI 検査説明書 —MRI 検査を受ける方へ—



MRI 検査の特徴について

MRI 検査は強力な磁石と電波を使う検査です。検査中は大きな音と振動がします。検査時間は約 30 分から約 60 分です。検査は台の上に横になって、狭いトンネルの中に入って行きます。検査中は動かないでください。

※検査当日は金具等の付いていない服装でお越しください。

注意事項

以下のものは外して、検査室に入ります。



- ・鍵、補聴器、腕時計、磁気カード、電子機器等（故障したりやデータが消失します）。
- ・入れ歯、装飾品、使い捨てカイロ（成分が鉄分の為）、エレキバン、金具の付いた下着等。
- ・マグネット付きの義歯や義眼（付かなくなる場合があります）。
- ・カラーコンタクトレンズ（金属を含んだ製品があります。検査当日は装着を避けるか、検査前に外していただきます。保存容器とメガネをお持ちの方はメガネをご用意ください）。
- ・湿布薬、ニトロダーム（ニトログリセリン真皮浸透絆創膏）、ニコチンパッチ等（貼っている部位に電流が流れる場合があります。検査前に外していただきますので予備をご持参ください）。
- ・金属製顔料を使用したアイラインや化粧、マニキュア、ペディキュア、金属を用いたネイルアート等（やけどの可能性あります。検査当日はご遠慮ください）。
- ・ヒートテック等の保温下着や、遠赤外線着（着ていると、ヒリヒリ感や火照り、発熱の可能性あります。検査当日の着用はご遠慮ください）。



次の方は、検査は可能ですが注意が必要です。

- ・妊娠 3 カ月以内（胎児への安全性が確立されていないため、急ぐ必要のない方は妊娠 4 カ月以降、出来れば出産後の検査が望ましい）。
- ・刺青がある（やけどの可能性や、変色することがあります）。
- ・けがや事故などで体内に金属片や異物が入っている（画像のゆがみの原因になります）。
- ・金属加工業をしている、また、していた（体内、特に目の中に金属片が混入している場合があります）。
- ・小児や、極度の閉所恐怖症がある。

検査に伴う危険性

次の方は、MRI 検査を受けることが危険です。スタッフにご相談ください。

- ・心臓のペースメーカーや金属製の人工心臓弁が入っている
- ・人工内耳を装着している
- ・取り外しのできない金属製の義眼が入っている
- ・脳動脈瘤の手術でクリップが用いられ、かつ、そのクリップの MRI に対する安全性の確認が取れていない
- ・金属製のステントを挿入して間もない（概ね 6 週間以内）ただし、MRI 対応のステントであれば検査可能
- ・MRI に対応していない磁性体金属が体内にあるか、体内に金属が入っていてその素材が不明。または、体外金属が取り外せない
- ・人工骨頭や人工関節が入っていて、かつ、MRI に対する安全性の確認が取れていない
- ・体内に埋め込んだ生命維持装置、体外の生命維持装置が外せない
- ・脳、脊髄の手術で神経刺激装置が入っている